

令和3年度

帯広市文化賞

帯広市文化奨励賞

帯広市文化活動功労賞

令和3年11月3日

帯広市教育委員会

帯 広 市 文 化 賞



いけだ みどり
池田 緑 (78 歳)

《略 歴》

平成 8 年	第 1 回北の大地ビエンナーレ 優秀賞 受賞
平成10年	第 29 回現代日本美術展 北海道立帯広美術館賞 受賞
平成13年	北海道文化財団海外派遣芸術家としてニューヨークに滞在
平成14年	北海道立帯広美術館「十勝の新時代V・池田緑展」
平成16年	文化庁特別派遣芸術家在外研究員としてニューヨークに滞在
平成17年	NPO法人十勝文化会議 十勝文化賞 受賞
平成18年	第 3 回大地の芸術祭・越後妻有アートトリエンナーレ参加
平成19年	あおもり国際版画トリエンナーレ 2007 青森テレビ賞 受賞
平成22年	北海道立釧路芸術館「池田緑展 Silent Breath」
平成23年	現代アートグループ「帯広コンテンポラリーアート」立ち上げ、以降継続的に 展覧会を開催 帯広市文化奨励賞 受賞
平成26年	帯広市とスワード市との国際姉妹都市締結 45 周年を記念した壁画交換事業で 壁画を制作
令和 2 年	北海道立帯広美術館「池田緑展」

《受賞理由》

氏は、国内外を舞台に作品を制作し、各地で個展を開催するなど意欲的な活動を続けてこられました。現代アートの分野において独自の世界を確立され、平成14年、令和2年に北海道立帯広美術館の企画で個展が開催されるなど、斯界において高い評価を得ています。

また、自身の創作活動に加え、平成23年に現代アートグループ「帯広コンテンポラリーアート」を立ち上げ、様々なテーマを冠した展覧会を継続的に開催するなど地域における現代アートを牽引し地域文化の向上発展に大きく貢献されています。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与し、特に功労が顕著であると認められることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものです。

帯 広 市 文 化 賞



かねこ あきら
金子 章 (73 歳)

《略 歴》

昭和45年	全道展初入選
昭和53年	平原社展工芸部門創設に参加 平原社美術協会会員となる
昭和56年	日本現代工芸美術展初入選
昭和62年～	全道展会員
平成2年	第22回日展第四科工芸美術初入選
平成3年	日本現代工芸美術展 現代工芸賞受賞 会員推挙 (以降、本会員)
平成12年	帯広市民劇場運営委員会 帯広市民劇場賞 受賞
平成21年～	現代工芸おびひろ創設 代表
平成22年	帯広市文化奨励賞 受賞 STV北2条エントランスアート展「金子章陶展」(個展)
平成24年	第44回日展第四科工芸美術入選
平成28年～平成30年	帯広市民劇場運営委員会委員長 十勝文化団体協議会会長 北海道文化団体協議会常任理事
令和30年～	現代工芸美術家協会北海道会事務局長
令和2年	改組第7回新日展第四科工芸美術「蒼い宙」入選 (6回目の入選)

《受賞理由》

氏は、教員として職務に励みながら陶芸の道でたゆまぬ創作活動を続けられ、個展を開催するほか、地元平原社展はもとより全道展、日本現代工芸美術展及び日展に出品し、令和2年には日展で6回目の入選を果たすなど高い評価を得ております。また、自身の熱心な創作活動の傍ら、地域の文化団体で要職を務め、帯広市民劇場運営委員会委員長として小学校出前講座のほか、未来創造ドラマワークショップや優れた地元アーティストを発掘し市民に鑑賞機会を提供する「北の輝き公演」といった新たな事業を展開するなど、地域全体の文化への関心を高め、幅広い世代の文化芸術の育成と振興に尽力してこられました。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与し、特に功労が顕著であると認められることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化奨励賞



おびひろしきょうどげいのうへいげんだいこ
帯広市郷土芸能平原太鼓
(設立 51 年)

《略 歴》

- 昭和 47 年 札幌冬季オリンピック前夜祭 北海道太鼓競演大会 優勝
- 平成 12 年 第 8 回地域伝統芸能フェスティバル日本のまつり出演
- 平成 13 年 札幌ドームこけら落とし公演出演
- 平成 21 年 第 5 回太平洋・島サミット晩餐会出演
- 平成 22 年 第 7 回北海道和太鼓ユースフェスティバル
会長賞・道知事賞 受賞
- 平成 23 年 エア・ドゥ就航記念イベント出演
- 平成 25 年 帯広市とスワード市との国際姉妹都市締結 45 周年を記念した壁画交換事業にて訪問団歓迎会出演
- 平成 27 年 帯広市郷土芸能平原太鼓45周年記念北海道太鼓フェスティバル
In 帯広開催
- 平成 29 年 クラブメッドトマムのオープニングセレモニー出演 (毎年)
幸福駅合興駅友好駅締結記念セレモニー出演

《受賞理由》

帯広市郷土芸能平原太鼓は、昭和 45 年に発足して以来、十勝の風土に根ざした郷土芸能として帯広 3 大まつりをはじめとする地域のイベントへの出演や介護施設への慰労訪問など意欲的な活動を続けてこられました。その演奏技術は、さまざまな大会等で賞を受賞するほか、島国の各国首脳が集う太平洋・島サミット晩餐会で演奏を披露するなど高い評価を得ております。また、ワークショップの開催等により多くの子どもたちに太鼓の楽しさ、素晴らしさを伝えており、これをきっかけとして、小学生の入会が増加するなど若い打ち手が増えており、後進の指導・育成にも熱心に取り組んでおられます。

このように、帯広市郷土芸能平原太鼓は、地域の文化振興の向上推進に真摯に活動されており、文化的技能が特に優秀であると認められることから、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するものです。

帯広市文化活動功労賞



やまなか ゆきたか
山中 幸高 (87歳)

《略 歴》	
昭和 37 年	日本詩吟学院岳風会認可北海道本部帯広支部 (現とがち岳峯会) 入門
昭和57年～	北海道本部審査員
平成元年	段位「総傳」取得
平成 4 年～	社団法人日本詩吟学院岳風会総本部正会員
平成 7 年	総本部表彰 (指導者の部)
平成 9 年～	総本部評議員・参与
平成11年～	資格審査 (初段 八段) 審査員 高段傳位審査 (皆傳 総傳) 審査員
平成12年	全国優秀者吟詠コンクール「和歌の部」審査員
平成17年	日本コロムビア吟詠音楽会会員
平成19年	NPO法人十勝文化会議 十勝文化賞特別賞 受賞 冠称「宗帥」授与
平成 27 年	帯広市民劇場運営委員会 帯広市民劇場賞 受賞 山中岳剛 帯広市民劇場賞受賞記念吟詠リサイタル出演

《受賞理由》

氏は、とがち岳峯会の創設師範である伊藤岳峯氏の薫陶を受け、59年の長きにわたり吟道の研鑽に励んでこられました。公益社団法人日本詩吟学院総本部の全国夏季吟道講座の講師に本市から初めて選出されたほか、全国の吟道講座受講者に向けた模範吟詠をレコーディングするなど、その卓越した技術は斯界から高い評価を得ています。また、本市において氏の長年にわたる指導により全道、全国大会で活躍する優秀な吟士を輩出し、指導者としても多大な功績を残す傍ら、吟道の普及活動にも精力的に取り組み、子どもたちに詩吟に触れる機会を提供するなど、幅広い世代を対象とした後進の育成に尽力されています。

氏は、地域の吟道の普及発展にひたむきな努力を続け、その活動と功績が顕著であると認められることから、帯広市文化活動功労賞を贈り顕彰するものです。